

しょうがくせい みな
小学生の皆さんへ

きょう がつさいご
今日は 5月最後のブログとなりますので、マリア様にお花の冠を捧げる気持ちで、お話したいと思います。

きのう むす め と はなし きょう わたし いちばん す さま え しょうかい
昨日は「結び目を解くマリア」についてお話しましたが、今日は私が一番好きなマリア様のご絵を紹介したいと思います。17世紀を代表するスペインの画家ムリリオが描いた「無原罪の御宿り」です。校長室前の廊下にも飾ってあります。ムリリオは同じ題の絵を何枚も書きましたが、「エル・エスコリアル」と名付けられているこの作品が代表的です。

す ひとみ てん たか らん あい さま かお み
澄んだ瞳で天の高いところをご覧になるけがれのない愛らしいマリア様のお顔と、身にまとったマントの青色がとても心に残ります。生まれつき耳が聞こえなかった娘のフランシスカをモデルに、ムリリオはこのマリア様を描いたといわれています。ムリリオの生きた17世紀のスペインは、相次ぐ飢饉(食べ物がない)や人々が苦しむこと(ペスト)や人々(病気の)の大流行、さらにキリスト教内の新旧教対立(考え方)が違(争い)など、不安と混乱に満ちた時代でした。ムリリオ自身5人の子どもの幼くして亡くしてしま(人生の悲しみを)ので、人生の悲しみを数えきれないほど味わったに違いありません。ムリリオはこの絵を描くことによってマリア様に救いの光を求めたのでしょうか。そして、この絵を見る者は、聖母のとりなしによって希望と慰めをいただくことができたのです。

さま はおや たいない やど とき かみ こ はは じゅんび しんこう
マリア様は母親アンナの胎内に宿った時から、神の子の母となるべく準備されていた、という信仰を「無原罪の御宿り」と呼んでいます。小林聖心では12月8日に「無原罪の聖母の祝日(百合の行列式)」でお祝いしますね。マリア様のマントの青色に表される真(真)に神様に向かう清(清)い心。私(私)たちもその心にあずかることができますよう祈(祈)りながら、百合の花をお捧げします。

い おお まいにち ま かみさま あお み
ウィルスとともに生きていかなければならない、不安の多い毎日です。でも真(真)に神様を仰(仰)ぎ見(見)ながら、希望(希望)をもって一日(一日)一日(一日)ていねいに過(過)すことができますように。マリア様のお取り次(次)ぎによってお祈(祈)りいたしま(ま)しょう。

